

ネパール研修に同行して (第一報)

2011. 01.

神戸常盤大学同窓会会長 佐々木千佳子

久しぶりの海外旅行となった今回の旅行で、まず「えっ!」と思ったのが「ELECTRONIC TICKET」通称Eチケットである。

過去の団体旅行でも手にしたこともなく、単なる旅行の行程表と置いていた。しかし、出国時の荷物預け時にパスポートと一緒に提示する必要があったことである。

6時間のフライトの後バンコクに到着(日本とバンコクの時差は2時間)、バンコク空港内での乗継ぎ時間は5時間。長いと思っていたが、ネパールでの買い物の参考にタイシルクやパシミナなど色々とウインドーショッピングをして過ごし、腰痛防止対策にもなった。そしてネパールへ…。

タイを出発して2時間あまり下を見下ろすと大小の河川に赤土の平野、隣席の中西氏にガイドをして頂きながら過ごしていると、ヒマラヤ連峰が見えてきた。席が翼のところであったものの端の席であったため右に左に眺めることができ、ネパールが歓迎してくれているかの様でうれしくなった。そろそろ到着かと思っていたがなかなか着陸態勢入らない、晴天のためヒマラヤ連峰を遊覧飛行?というサービスで、大満足!

20分遅れでネパール空港に到着(タイとの時差1時間15分)、降り立つとヒマラヤ連峰の気高さとは真逆で、強烈なガソリンの臭いと埃っぽさで一気に下界に引き落とされた思いであった。

のんびりとした入国手続きののち、ライ先生たちの出迎えを受け一路ネパールでの宿泊地へ。

名高いガタゴト道は乾期で埃高き路でもあった。乗り物に弱い私にとって、やはりこの歓迎ぶりにはお手上げ。

最悪には至らなかったものの、折角のネパールでの最初の食事(夕食)を食することが出来なかったのは残念であった。

また、ネパールの第一報は「明日、ストライキが予定されていて、移動が難しい…」とのこと。(初日から暗雲?)ヤキモキしたが翌日は一部解除で何とか乗り物も動き、最悪の事態は避けられいよいよ研修の開始。保健所・ネパール医科大学等の見学の後ホストファミリーと合流。いよいよ抽選。クジ引きによるホームステイ先決定後、学生を見送る。

第2日目からは学生はホストファミリーに連れられ、我々はホテルから研修センターに集合し、研修先へ…。

シバクチ研修センターには SHI-GANINT'L COLLEGE OF SCIENCE TECHNOLOGY や診療所が標榜されている。そして新たに微生物研究所としての準備がなされていた。

今回の研修計画では、ネパールの医療・学校教育の現状を見学するとともにネパールの文化を学ぶものである。詳細は(別添1 2010年度

ネパール派遣予定表)を参照して頂きたい。私は、支援事業の実態とその背景を知る良い機会と思って今回の研修に望んだ。特に支援者としてはその背景が重要であると考え、教育体制と経済・環境に着目した。

まず、教育体制については日本とはかなり異なる。市内には Public College や〇〇 College が至ところに目立ち、一瞬違和感を感じた。そこでフリーの時間にライ先生にレクチャーをお願いして、ネパールの教育体系の説明を受けることが出来て少しだけ理解?出来た気がした。経済的に困っていても成績さえよければ救済できるシステムも組み込まれていて、日本の奨学金制度や看護学校のシステムに似ている。(詳細は後日報告の中西氏の総説を参照していただきたい。)

見学した小学校・幼稚園では英語の授業がなされていて、日本の方が出遅れている感は否めない。しかし、校舎は裸電球が1個、しかも点灯はされていない。もう少し明るくしてあげたい!でなければ目(視力)も悪くなりそう…。ハード面はともかく生き生きとした元気な生徒に、こちらが励まされた思いがした。

次に経済と環境であるが、物は思った以上に溢れていた。道路での営業取り締まりも見られる中、逞しく商売をしていた。果物や野菜は小売りの店や自転車での振り売りも多く見られ、雑貨店も多くみられた。しかし、一見きれいに洗われてみずみずしい野菜も肝心の水が問題で、生では食すことが出来ない。余談であるが我々は煮たり・蒸したりの食事を心掛け、体調管理は事なきを得た。中でも目を見張ったのが車とバイクの量である。メーカー名?はSUZUKIがダントツである。インドとの合弁会社が功を奏したのであろう。しかし中国のメーカー車の勢いがすぐそこに迫っているのがわかる。問題は信号がほとんど見あたらず過去に機能していた形跡の信号機やバス停らしきものもみられたが、よく見ないと何?と思う有様である。交通ルールは早い者勝ち?のようである。(ルールがあってないような…)そのためクラクションの音がうるさい!交通事故はどうか。(やはり死亡事故もあるとのこと)ライ先生に伺ったところガソリン代は日本と同じ価格とのこと。対収入比では相当の差があるにも係わらずその車両の多さには驚いた。バイクは2人乗りも多く、後ろの女学生の髪は染められている。少し前の日本社会と重なって見えた。因みに女学生のスカート丈も以前とは比較にならないくらい短くなったようだ。

一方、母親らしき人を背負って車両の間を歩く人がいた。医療状況はまだまだ医療機関数も少なくこのように何キロも歩いて受診に来る人も多とのこと。このように地域格差も大きい。見学した保健所の1つであるが、建物の中は寒いので日が当たっている戸外で診療を待っている。大学病院の入院ベットですら野戦病院並みである。

また、ベットの回転率はというと多いときでも6割という。

原因は医者をはじめ看護師ら医療従事者の国外流出の影響とのこと。

日本でもよく聞く話である。人手不足はどの国も同じパターンなのか…。

その中でも一部の人でもネパールの発展を目指し、教育に医療の発展

に努力している姿には頭が下がる。

ヒマラヤ連峰の麓にもかかわらず、なぜ水・電気などのインフラが問題なのか？水は浄化されていないし、停電が多い国、ネパール。出発前、在ネパールの日本大使館のホームページによると地区毎に停電時間帯があることがわかったものの、私たちが滞在する地区がどのブロックに相当するのかわからず、停電時間が長くなっている事だけを念頭においた。ホテルでは停電があっても直ぐに自家発電に切り替わり？あまり不自由を感じることはなかった。お水も飲料水だけ注意すれば、洗面もシャワーも問題はなかった。（5つ☆ホテル）但し、食事の際のミネラルウォーターの注文には料金が請求されることは承知しておくべきであろう。また日常はお風呂のない家庭も多いとのこと。但し、雨季の雨水の貯水タンクも大容量のもの（1000L）も販売されていた。普及率が気になった。浄化と併せて普及してほしい。お世話になったシバクチ研修センターではやはり停電があり、震災時を思い出した。このような状況下、市街地では高層マンションの建築ラッシュである。計画性がない!!その現状には何か納得出来ないものがある。『水・電気はどうなるの？』そしてこのスモッグは？マスクだけでなく、ゴーグルが必要でしょ！

これが現在のネパールという国の現状を示しているのだろう。国を預かるトップがもっと国民に目を向け、国の将来を見据えた政策を進めれば、本当の意味での発展はそう遠くないであろう。日本とネパールの交流は100年という。せめてインフラの整備だけでも…と思う。

一方、市内の至る所で膝を抱えて「日向ぼっこ」をしている人が見られたり、仕事を求めて役所の近くに集団が…。(かなりの人数である) なにかチグハグ…。

ネパール人気質とはどんなであろうか。私のイメージでは何故か穏和で心優しき人。

ハードなスケジュールの合間の早朝5時起床15分出発で見に行ったナガルコットの日の出は荘厳なものでした。360度のパノラマが開かれ、薄墨色の山々が少しずつ朝日に染まっていく様は言葉になりません。この日ばかりはネパールの自然とイメージが一致し、清々しい一日になりました。

そして別れの朝…。

ネパール出国の日学生達は、心と両手にいっぱいのお土産を抱え、ホストファミリーとともに合流してきた。

最後にライ先生にはお忙しい中、研修のガイドのみならず、お時間を作っていただきカカニの丘へお連れいただいたり、ご自宅にご招待していただいたりと本当にお世話になりました。ありがとうございます。感謝申し上げます。また、同行でお世話になりました引率の先生方にも深謝いたしますとともにこの経験で得た物を今後活かしたいと思います。

※写真は一部坂本先生撮影のものを使用させていただきました。